

御 嶽 山

○ 第 138 回火山噴火予知連絡会定例会（6 月 20 日開催）による評価

- ・ 2014年噴火後は、噴火の発生はありません。
- ・ 2014年9月27日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動は、継続していますが、長期的には低下しています。
- ・ 山頂付近直下の火山性地震の発生回数は、2015年中頃から1ヶ月あたり50～90回前後であったのが、2017年4月及び5月は1ヶ月あたり30回程度と徐々に低下しています。
- ・ 地殻変動観測では、2014年10月以降地下浅部が変動源とみられる山体の収縮が継続しています。
- ・ 以上のように、火口列からの噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は、その後もゆっくりと低下が続いており、現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっています。

最近の御嶽山の火山活動状況

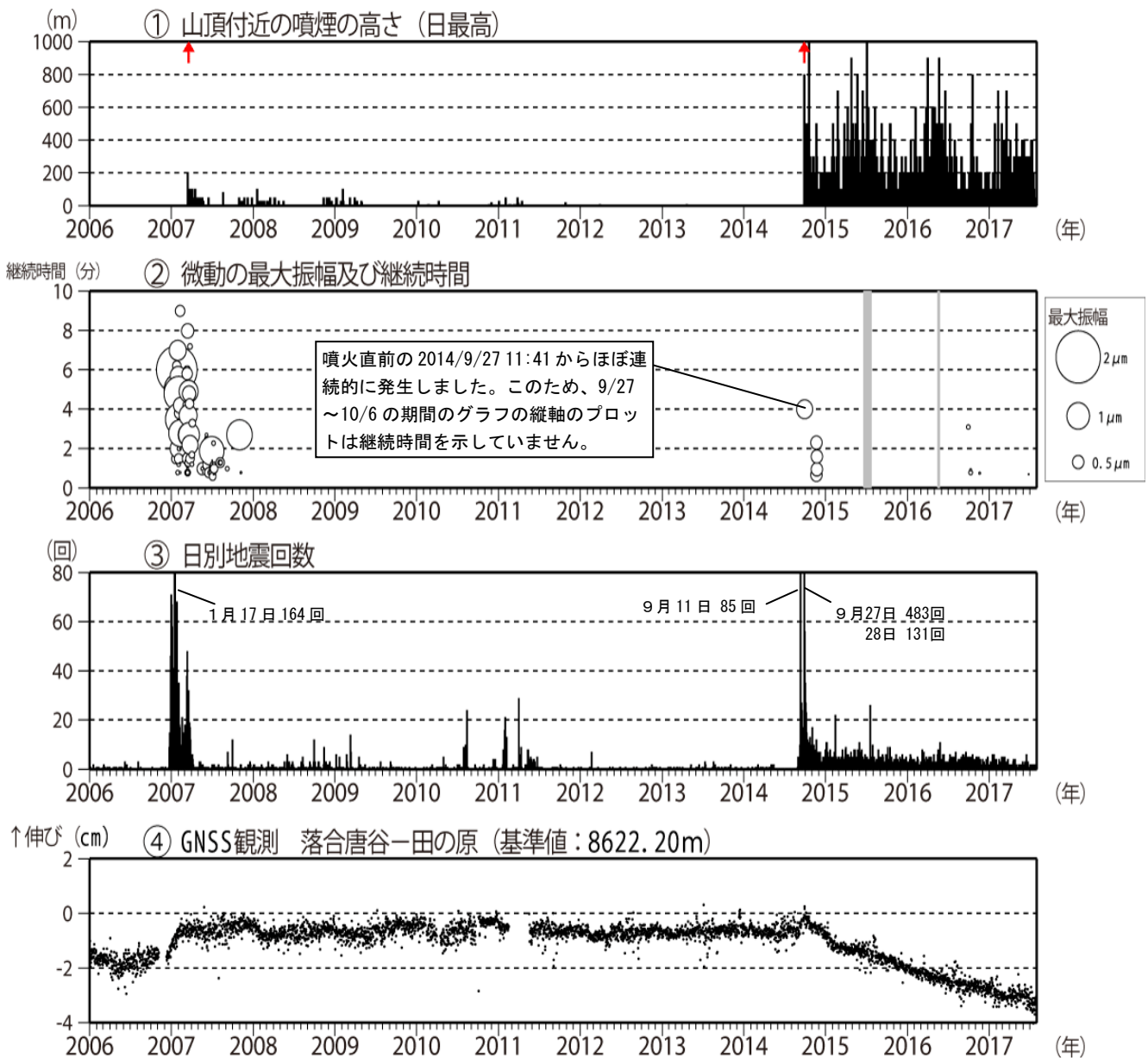


図1 御嶽山 最近の火山活動経過図 (2006年1月1日～2017年7月31日)

- ① 監視カメラによる噴煙の高さ 噴煙の高さは日最大値 (噴火時以外は定時観測 (09時・15時) の値)。矢印は噴火発生を示します。
- ② 火山性微動の最大振幅は田の原上観測点の上下振幅です。灰色部分は機器障害のため振幅値は欠測です (火山性微動の発生した2015年7月20日、2016年5月19日は欠測です)。



図2 御嶽山 噴煙の状況（剣ヶ峰の南南西約6kmの中部地方整備局の滝越監視カメラによる）
 ・噴煙活動は、徐々に低下しながらも継続している。

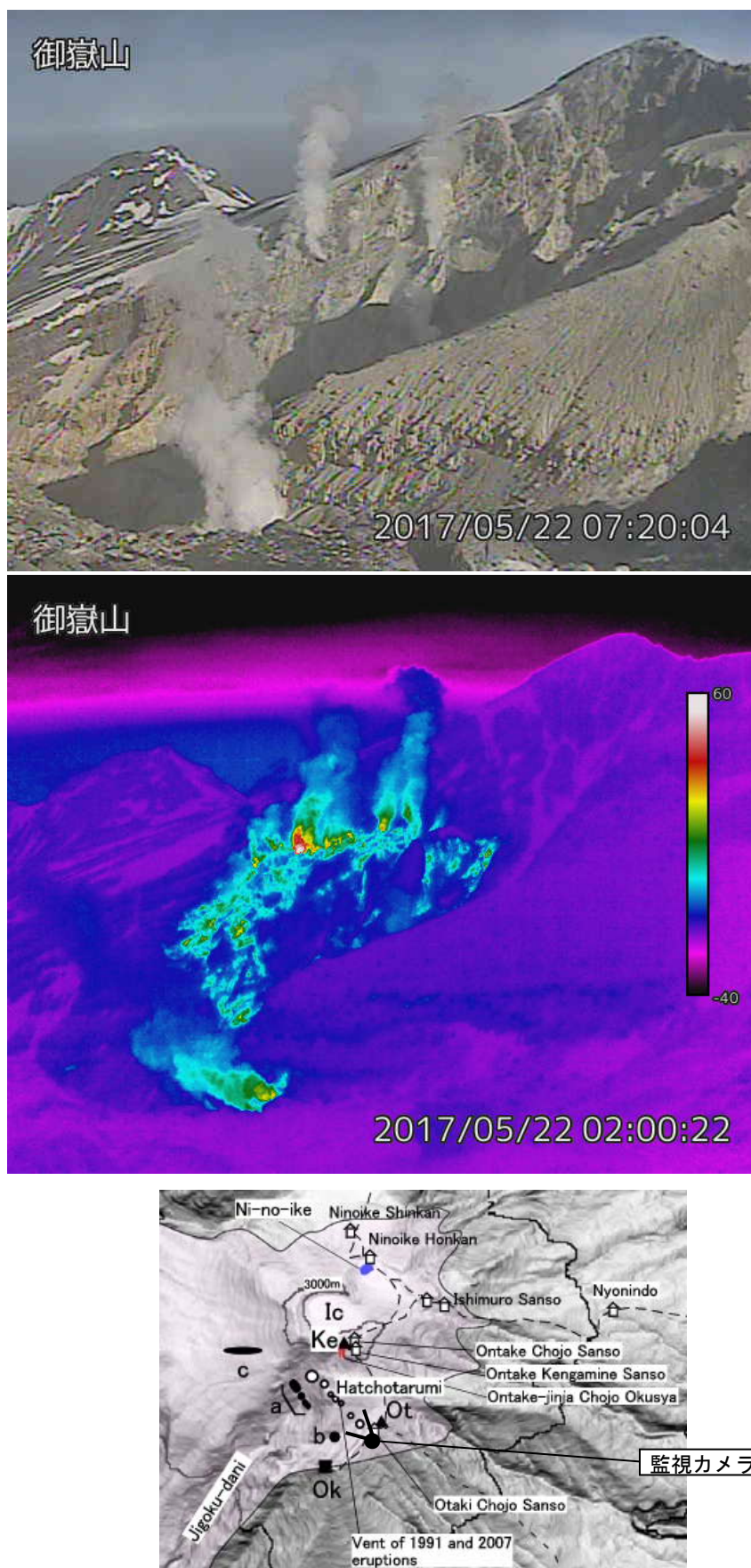


図3 御嶽山 地獄谷の可視画像と赤外熱映像装置による表面温度（監視カメラによる）と監視カメラの位置